

南山大学図書館カトリック文庫の

所蔵図書・雑誌について

青山 玄

5年前から眞野、栗山両氏が中心となって、図書館が積極的に収集した「カトリック文庫」は、以前からあったものと合わせて5千点に達すると聞かすが、それを通覧しての感想を、少し述べてみたい。

まだ収集整理中で、全面的に閲覧に供されているわけではないようだが、しかし、たとえ途中であってもこのようなチェックをなすことは、「カトリック文庫」を今後どのように整理充実させたら良いかを考える上に、大切だと思われる。つい先日も、この「カトリック文庫」のために私が寄贈した『カトリック新聞』を調べていたら、それを整理しようとしていた若い図書館員が、昭和6年7月5日付の『日本カトリック新聞』が299号となっているので、当初それ以前のカトリック新聞が欠号になっているのだと思ったり、敗戦直後の昭和21年から25年3月までのカトリック新聞も同様に欠号になっているのだと思ったりしたことを知って、驚いたからである。

『日本カトリック新聞』（週刊）は昭和6年1月から発行されているが、初めのうちはその前身である『カトリック・タイムス』（月2回）のタブロイド型（普通の新聞を二つ折にした大きさ）で発行されており、大正12年4月以来の『カトリック・タイムス』の前身は同年1月以来の『公教青年時報』（月2回）、その前身は大正10年2月発刊の『公教青年会々報』（月判）である。カトリック新聞はそれらの号数を継承しているために、その第1号が299号なのである。また戦後昭和21年から25年3月までの『カトリック新聞』も、紙不足のためタブロイド型であった。このすべてを揃えて一緒に寄贈したのだが、図書館側では普通の本棚に置くことのできない新聞紙の大きさのものは、タブロイド型の新聞から分けて別のところに保管していた。そのため上述のような誤解が生じたものと思われる。今後もこのような誤解は起こり得ると思われるので、号数が連続しているこれら一連の新聞は、大きさが変化して不揃えにはなっても、なるべく同じ所に配架するように保管場所を工夫してもらいたい。

同じく時代により雑誌の大きさも発行所も発行回数もいろいろと変化しているのは、明治24年に京都で創刊され現代まで続いている『声』誌であるが、これもこれからの整理段階で、なるべく同じ場所に年次順に陳列するよう心がけてもらいたいものである。今のところ本学の図書館にはまだ明治40年以降のものしかなく、それ以前のものが欠けているが、しかし、将来それ以前の『声』誌を入手する可能性もあるので、その前の部分60センチほどの余裕を、本棚の中に残して置いて欲しいものである。

更に欲を言うなら、明治・大正・昭和初期に日本カトリック界の総合情報文化雑誌の性格を示していた『声』誌以前に、多少とも同様の性格を示していた『公教萬報』（明治14年5月～18年4月、月2回）と、それを改題継承した『天主の番兵』（明治18年5月～22年12月、月刊）、並びに地方的雑誌ながら同様の性格を持つ『光明』（大正5年1月～昭和6年6月、週刊、札幌のフランシスコ会）と『公教家庭の友』（大正9年1月～昭和6年6月、月刊、大阪玉造教会月報の後身）、『アヴェ』（昭和6年1月～16年、月刊、神言会員発行の修養誌、16年には『修養』と改題）と『炬火』（昭和10年1

月～15年12月、月刊、仙台の函館教区本部出版部）などの雑誌も、まだ完全に揃っていないが、昔の日本カトリック界の動きを研究する者にとっては貴重な資料なので、できれば『声』誌に近い場所に所蔵するようにして欲しい。

「カトリック文庫」の中には、他にも各種の古いカトリック雑誌が多く集まっており、その中には重複しているものもあるが、『世紀』など図書館の定期刊行物の場所に所蔵されているものもあることを思うと、量的には古いカトリック雑誌の既に半分以上は本学の図書館に所蔵されていると言ってよいのではなかろうか。児童雑誌『教の園』（月刊、三才社発行）は、明治42年の第1号から大正13年12月に『声』誌に合併されるまでの全部が揃っており、聖コルベ神父が長崎で創刊した『無原罪の聖母の騎士』（月刊）も、昭和6年5月の第1号から7年末までが欠けているだけで、8年1月号からは揃っている。

その他のカトリック図書については、信仰入門書・教理倫理関係書・キリシタン書・信心書・伝記歴史書・典礼祈祷関係書などのいずれの分野においても、その殆どは昭和になってからのもので、300点を越える明治大正期のカトリック図書からは、その7分の1も集まっていない。明治大正期のカトリック図書の入手は、今となっては非常に難しいが、しかし、上智大学の聖三木文庫や当別のトラピスト修道院、並びに長崎の純心女子大学などには、まだ本学の持っていない図書が多く所蔵されているので、将来の研究者のため補充しておきたい価値ある図書数十点は、これらのカトリック施設から数年かけてコピーの形で収集することができるのではなかろうか。

これらの施設がまだ殆ど持っていないくて、本学の図書館が比較的多く備えているものは、世界各国語の聖書と、聖書と訳史関係の資料文献と言って良いであろう。各国語の聖書は図書館の他の部分に所蔵されているが、聖書と訳史関係の著作は「カトリック文庫」に所蔵されている。勿論、明治学院大学やその他のプロテスタント諸大学並びに日本聖書協会が所蔵している豊富な資料文献とは比較にならないが、しかし、近年復刻出版された幕末のギュツラフやベッテルハイムの聖書をはじめ、明治初期のゴープルやヘボンらの聖書など、カトリック大学には珍しいほどプロテスタント関係の著作が多く集まっている。本学の「カトリック文庫」の一つの特徴と言ってよい。

（Gen Aoyama：文学部神学科教授）

「カトリック文庫」

整理基準の作成について

現在、カトリック文庫プロジェクトにおいてカトリック文庫図書整理基準を作成中である。その参考のために、1994年4月上智大学聖三木図書館、カトリック中央協議会資料室を訪問する機会を得た。ここでは、基準作成の経過と併せて両館を紹介したい。

訪問に先立つ我々の最大の関心事は以下の2点であった。

1.カトリック関係資料を、どうグルーピングしているか。特に修道会はどう集中させているか。

2.分類テーブルは、一般の図書館と同様に標準的なNDC(日本十進分類法)を使用しているか、あるいは資料の性格に則した独自分類表を使用しているか。

まず、最初に訪問した聖三木図書館は、上智大学内にあるが会員制システムをとり、利用を希望する学外者にも開放されている点がユニークである。蔵書数約5万冊の小さな図書館ではあるが、カトリック関係資料が幅広く揃えられており、都心にあっても騒がしく無く、大変落ち着いた印象を持った。

丁度再整理(独自の分類番号からNDCへ変換中)の最中という事もあり、整理に関する貴重な体験を聞くことができた。特に、個人的な整理法は一つの閉じた世界の表現法としてコレクションの性格を際立たせるが、量的な増大や時間の経過とともに他の人に継承できないという指摘は示唆に富むものであった。また、J.M.ニューマン、シモーヌ・ヴェーユ、P.ミルワード等個人やテーマ別別置(小コレクションの形成)も大変分かり易く、利用し易い工夫が随所に見てとれた。

続いて訪れたカトリック中央協議会資料室は、昨年オープンした日本カトリック会館内にあり、新しい集密書架に新刊書が整然と配架されていた。図書は同じくNDCを用いてグルーピングされていたが、広報部に属することからも明らかなように、共同通信宗教情報やCatholic News Serviceによる世界中からの情報入手、独自の宗教記事スクラップや資料作成、司教協議会の議事録の保存、ローマ法王の講演原稿のコピー等が常時準備されており、すぐに照会や広報活動に利用できることが大きな特色であった。

これらの訪問を通じて、分類は継続性の意味から標準テーブルを用い、特殊化はできるだけ抑えた方がよい。小コレクションの別置や各種目録の作成、積極的な広報活動等々多くの教訓を得た。現在、これらの教訓を活かすべく、プロジェクト内で整理マニュアルを作成中である。大変遅々とした歩みではあるが、寄贈頂いた資料を将来に活かすためにも、時間を掛けて取り組んで行きたい。

まだ案の段階であるが、その骨子は以下のとおりである。

・「カトリック文庫」内の資料は、次の3通りに分ける。

1.一般図書(含:貴重書)、2.教会史誌、3.特殊コレクション

・分類は原則としてN D Cを使用し、教会史誌・修道会史誌は修道会・教区単位に集中させる。

・目録の精粗は一般図書に準じるが、翻訳者、修道会名、教会名等からの検索も考慮する。

最後に、お忙しい中ご指導頂いた聖三木図書館の小林氏、長谷川カトリック中央協議会広報部長をはじめとする関係者の皆さまにこの紙面を借りて、お礼申し上げます。

（学術情報課：栗山義久、三谷端司）

資料寄贈者一覧 (1990.6 ~ 1994.6)

「カトリック文庫」創設にあたり、多くの方々より貴重な資料をご寄贈いただきました。ここに名前を掲載させていただき、改めて謝意を表したいと存じます。

[個人]

青山玄氏(南山大学教授)	デーケン, アルフォンス氏 (上智大学人間学研究室)
阿南成一氏 (元南山大学教授)	富山武松氏 (カトリック金沢教会信徒)
エイルワード, リチャード氏 (桑名カトリック教会)	西堀勢子氏 (故西堀重雄南山大学職員夫人)
木村満勢氏 (故木村太郎南山大学名誉教授夫人)	濱辺要作氏 (長崎市浦上教会評議員)
楠真宗氏 (カトリック酒田教会)	蒔苗暢夫氏 (南山大学講師)
クネヒト・ペトロ氏 (南山大学助教授)	眞野和夫氏 (南山大学職員)
国分敬治氏 (南山大学名誉教授)	丸山公子氏 (東京都小平市)
小久保俊三氏 (元南山大学職員)	水浦征男氏 (聖母の騎士社編集長)
後藤文雄氏 (カトリック恵方町教会)	三原佐智子氏 (ベリス・キリスト教宣教修道女会管区長)
五味巖氏 (カトリック東山教会)	山口美穂氏 (カトリック本原教会信徒)
相馬信夫氏 (カトリック名東教会)	山本和子氏 (カトリック福井教会信徒)
竹山セツ氏 (宮崎カリタス修道女会)	山本和義氏 (南山大学教授・前図書館長)
ダンフィー・ウォルター氏 (南山大学講師)	

50音順

[機関・団体]

イエズス会 (東京都)	カトリック松本教会 (松本市)
イエズス会 S J ハウス (東京都)	カトリック本原教会 (長崎市)
イエスの小さい姉妹の友愛会 (東京都)	カトリック山形教会 (山形市)
岡崎カトリック教会 (岡崎市)	カトリック横浜司教館 (横浜市)
オプス・デイ (芦屋市)	厳律シトー会天使の聖母トラピスチン
カトリック秋田教会 (秋田市)	修道院 (函館市)
カトリック恵方町教会 (名古屋市)	厳律シトー会那須の聖母修遺院 (栃木県)

カトリック押切教会（名古屋市）	磬社（大阪市）
カトリック小山教会（小山市）	十字架のイエズス修道女会（千葉県）
カトリック鹿角教会（鹿角市）	殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会
カトリック金沢教会（金沢市）	札幌マリア院（札幌市）
カトリック五反城教会（名古屋市）	神言会ハウス（名古屋市）
カトリック酒田教会（酒田市）	神言修道会（名古屋市）
カトリック志家教会（盛岡市）	神言修道会多治見修道院（多治見市）
カトリック仙台司教館（仙台市）	神言神学院（名古屋市）
カトリック主税町教会（名古屋市）	聖ガイエンシオ・ア・パ°の愛徳姉妹会（神戸市）
カトリック中央協議会（東京都）	聖心会第一修道院（東京都）
カトリック築地教会（東京都）	聖母カテキスタ会（名古屋市）
カトリック鶴岡教会（鶴岡市）	聖マリアの無原罪教育修道会（名古屋市）
カトリック東京大司教館（東京都）	聖霊奉侍布教修道女会秋田修道院（秋田市）
カトリック名古屋司教館（名古屋市）	聖霊奉侍布教修道女会金沢修道院（金沢市）
カトリック那覇司教館（那覇市）	聖霊奉侍布教修道女会小金井修道院（東京都）
カトリック奈良教会（奈良市）	ドミニコ会聖ヨゼフ修道院（瀬戸市）
カトリック新潟司教館（新潟市）	福音の光修道会（廿日市市）
カトリック半田教会（半田市）	フランシスコ会聖アントニオ神学校（東京都）
カトリック東山教会（名古屋市）	ベリス・メルセス宣教修道女会（東京都）
カトリック本荘教会（本荘市）	ラ・サール会（東京都）

50音順

編集後記

そもそも、私のような最も非文化的な人間が、かくも格調高い紙面の編集に携わるという事自体、不思議です。しかしこうなった以上は、定期的な発行を目標として努力していきたいと思いますので温かい眼で見守って下さい。（Y.O.）

そういうわけで大変でしたが、やっと第2号ができました。（T.Y.）

南山大学図書館カトリック文庫通信

カトリコス 第2号 1994.7.1発行

南山大学図書館「カトリック文庫」プロジェクト

編集委員 尾形裕司、山田豊明

〒466 名古屋市昭和区山里町18

Tel:052(832)3163 FAX(G3)052(833)6986

(タイトルデザイン：平松富美)